

Web 会議システム上における自分の映像の有無と コミュニケーションの質の関連性

2032004 浅野尚紀

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

コロナ流行後、日本では感染対策の観点からテレワークや Web 会議などが普及した。Web 会議は対面で行う会議に比べて、時間や場所を気にせずに参加できることから、働き方の多様化という点で社会に良い影響を与えていると考える。

しかし、イトーキ(2023)によると、「顔を映さずとも問題ないため」などの理由から調査対象者の約 62%が Web 会議中に自分のカメラを基本オフにしていることが分かった。

また、藤村(2021)は、オンライン上のコミュニケーションにおいて、自分の顔を自分あるいは他者へ見せることを気にする度合いと関連する心理的特性として公的自意識と自己指向的反応を挙げている。

2. 目的

本研究では、自分の画面に自分の顔映像が有る状態と無い状態でコミュニケーションの質に変化があるか明らかにする。さらに、それらの変化が参加者の公的自意識や自己指向的反応とどのように関連しているか調査する。そこで、Web 会議システムを利用し、自分の顔映像の有無による会話のコミュニケーションの質や会話に対する評価の変化を確かめる実験を行なった。コミュニケーションの質の評価については、参加者のコミュニケーションに対する主観的評価や発話時間などを用いて行う。

3. 実験

3.1 方法

実験参加者： 本学情報科学部情報ネットワーク学科 3 年生 7 名（男性 5 名／女性 2 名）が参加した。この他、4 年生 3 名（男性 2 名／女性 1 名）に協力者として参加してもらった。実験は、参加者 1 名と協力者 2 名の計 3 名を 1 組のグループとして行われた。
実験計画： 自分の画面上の自分の顔映像に関して「映像有り」「映像無し」の 2 条件を設け、1 要因 2 水準参加者内計画で実験を実施した。

材料： 実験課題として選択型のテーマ課題を用いた。また、参加者のコミュニケーションに対する主観的評価と公的自意識、自己指向的反応を測ることを目的としてアンケートを Google Form を用いて作成した。

実験環境： Web 会議システムは Zoom を使用した。また、参加者の視線の動きを測定するために眼球運動測定装置 (Tobii 社製 Tobii pro nano) を使用した。

手続き： 実験参加者は実験内容と注意事項の説明を受けた後、用意された 5 つの選択型のテーマから話すテーマを 2 つ選択した。実験は自分の顔映像が有る状態と無い状態で前半と後半という形に分けて行なった。顔映像有りと無しの順番は参加者によって順番を入れ替えて行なった。また、前半と後半の会話実験はどちらも話し合う時間を 10 分とした。前半

の実験後には、コミュニケーションに対する主観的評価のアンケートに回答してもらった。そして、後半の実験後には、コミュニケーションに対する主観的評価に加えて、参加者自身の公的自意識と自己指向的反応を測るアンケートに回答してもらった。会話実験中は会話内容の録画と視線の動きの測定を行なった。

3.2 結果

コミュニケーションの質を測る項目として「参加者のコミュニケーションに対する主観的評価」「参加者の発話比率」「参加者の自発的な発話の割合」「参加者が自分の顔映像を見た回数」の 4 つを用いた。表 1 に各条件における参加者の自発的な発話の割合を示す。

表 1: 参加者の自発的な発話の割合 (%)

	映像有り	映像無し
参加者 1	9.6	33.4
参加者 2	28.6	34.8
参加者 3	12.7	24.8
参加者 4	0	31.8
参加者 5	41.2	75.8
参加者 6	83.0	69.4
参加者 7	4.0	1.5

結果としては、7 名のうち 5 名が映像有り条件よりも映像無し条件において割合として大きい値を示した。しかし、条件間に有意な差は認められなかった ($t(6)=1.78, p=.13, d=.67$)。ただし、中程度の効果量となることがわかった。

4. まとめ

コミュニケーションの質の変化については、実験結果から映像有り条件よりも映像無し条件の方が話しやすさという点で優れている可能性があるのではないかと考える。一方で、有意な差が認められなかったことや心理的特性との関連性について明らかにできなかったことから、実験構成の見直しや参加者数を増やしたうえで、より正確な分析をする必要があると考える。

参考文献

ITOKI. (2023 年 5 月 24 日). 参照日: 2023 年 5 月 29 日, 参照先: コロナで定着した「Web 会議」、不便や不満を感じるのは「通信品質」と「相手の反応や表情がわからないこと」イトーキが首都圏のハイブリッドワーカーの Web 会議事情を調査「顔のみえるコミュニケーション」が Web 会議の質を高める:
https://www.itoki.jp/press/2023/2305_research.html
藤村友美. (2021). ビデオコミュニケーションにおける顔表示への敏感さと共感性および公的自己意識との関連. 日本心理学会大会発表論文集, 日本心理学会第 85 回大会(pp. PM-040). 公益社団法人 日本心理学会.